

# 「勝ち抜く投資法」の極意

発表者：石橋・加藤・佐久間・丸山・結城

## 【1】株について

株とは、株式会社を設立するにあたって、事業を行うための資金を株主から募るもの。出資者のことを株主といい、株主は経営参加権や利益配当請求権が得られる。株の変化の要因は主に①企業の印象②企業の将来の利益が上がるという予測③新商品やサービス改善が行われるなどの情報だ。

株式投資で得られる利益には3種類ある。

- 1 値上がり益(キャピタルゲイン)
- 2 配当(インカムゲイン)
- 3 株主優待

## 【2】選び方

- ①マクロな視点でジャンル（業種）を選択する。

浅く広く情報を収集。株式市場全体・業界の動向を知る。

Ex.日本経済新聞・ロイター.co.jp 会社四季報など

- ②ミクロな視点で個別銘柄を分析。

深く狭く情報を収集。企業の決算書をもとに同じ業界内の企業を比較して選ぶ。

Ex.各証券会社・各企業の Web サイトや決算書・東京証券取引所など

## 【3】マクロな視点でジャンルを選択

現在、日本の上場企業は4000社弱、その中で東証第1部に上場している企業だけでも1700社以上。この多くの企業を比較・検討するのは困難なので、ランク・グループ分けする必要があり、以下の方法がある。

- ①大型・中型・小型

東証では、東証第1部に上場しているすべての銘柄の中から、時価総額が大きくて流動性が高い上位100銘柄のことを大型株、(p041)それに次ぐ時価総額が大きく流動性の高い400銘柄を中型株、それ以外の全銘柄を小型株と定義している。

- ②業種による分類

ユニクロを展開するファーストリテイリングと電気機器のRICOHでは見るべき指標も評価すべき点も異なる。そのため東証では全銘柄を33の業種に分類している。(下記一例)

業種	代表銘柄
サービス業	オリエンタルランド、電通

証券、商品先物取引業	大和証券グループ本社、野村 HD
銀行業	三菱 UFJFG,三井住友 FG

この33業種ごとに東証が騰落率（株価の変動率）や指数を出しており、どの企業がどの業界に入っているかは東証の web サイトでチェック可能。

#### 【4】為替相場

円高	
個別の動き	全体の動き
輸出企業（電力、ガス、製紙会社） ↓	為替差益で外国人 ↑
輸入企業（自動車、電機メーカー） ↑	

円安	
個人の動き	全体の動き
輸出企業（電力、ガス、製紙会社） ↑	為替差益で外国人 ↓
輸入企業（自動車、電機メーカー） ↓	

#### 【5】景気動向

オフensive株…景気が良い時によく売れる、今後の好況を見込んで増産による増益が期待できる企業。例えば、自動車関連の鉄鋼・工作機械などの銘柄。

ディフェンシブ株…景気が良くない時でも生活に密着したもの・サービスを提供する企業。例えば、電気や医療品、鉄道などの銘柄。

#### 【6】ミクロの視点から銘柄を選ぶ

1. 決算書

2. 株式投資指標

指標1：EPS（Earnings Per Share）＝1株当たりの純利益

高いほど「お買い得」な株と判断され、今後の成長が期待できる

指標2：PER（Price Earnings Ratio）

同じ業界同士で見比べた時、低いと早く投資したお金を回収できる

指標 3 : PBR (Price Book-value Ratio)

指標 4 : ROE (Return On Assets)

指標 5 : ROE (Return On Equity)

6つの指標からケータイ3社を比較してみる

	NTT ドコモ	KDDI	ソフトバンク
EPS (=当期純利益÷発行株数)	11,797 円	58,149 円	175.28 円
PER (=株価÷EPS)	11.60 倍	8.27 倍	12.39 倍
PBR (=株価÷BPS)	1.13 倍	0.92 倍	2.92 倍
ROE (=当期純利益÷株主資本)	%	%	%
ROA (=当期純利益÷総資産)	%	%	%

(Yahoo!ファイナンス,2012/01/20 より)